

教育研究所だより



宮古島市立教育研究所
 指導主事 砂川 睦紀
 宮古島市平良字西里1140
 TEL 73-1104

令和3年度 学校課題解決に向けた研修会(学習指導・学習評価) 「指導と評価の一体化」開催

8月18日（水）に琉球大学アドバイザースタッフ派遣事業を活用し、琉球大学大学院道田泰司教授と市内小中学校（6校）をオンラインで接続し、研修会を実施しました。こちらは本研究所が4月に実施した「学校課題アンケート調査」において、（学習指導・学習評価）に課題があると回答した学校のうち、『学習評価』についての研修を要望された学校を対象に開催させて頂きました。

今回の研究会は道田教授の提案で、Q&A サービス「slido」（スライドゥ）というツールを活用して行われました。まずはじめに、先生方に今もっとも知りたいことをそれぞれの端末（スマホやPC）から入力してもらい、その事についての回答と事例を交えた講話が行われ、講話と質疑応答を同時に進めていく形式で、まさに「かゆいところに手が届く」研修となりました。

**先生方の疑問が寄せられたslideの画面を*

形成的評価と総括的評価の捉えについての再確認や

「指導と評価の一体化」を図る上でたくさんの示唆を頂くことができました。道田教授には感謝の気持ちでいっぱいです。以下、参加された先生方の感想の一部を紹介します。



○ PDCA を小さくたくさん回すことが授業改善への大きな一歩に繋がるんだと気づいた。実践事例や書籍などの例示を示しながら分かりやすい言葉でお話をしていただいたので、指導を評価の一体化についての理解が深まった。

○今までなんとなく理解したつもりになっていた、指導と評価について、理解の仕方が根本的に違っていただけに気づきました。評定と切り離し、授業改善のための評価に取り組んでいきたいです。質問への回答やわかりやすい説明ありがとうございました。

○「指導と評価の一体化」が授業改善のためである！ということが、改めて自分の中にスツ〜と落ちてくる、分かりやすいお話でした。

○授業改善の視点では、すべての生徒を見取る必要はないということや、どのように学ぶかという視点で改善するということは、目から鱗でした。2学期から全職員で協力して、授業改善をしていきたいと思えます。

○「評価を切り離して考えること」と話していましたが、見とめることは、出来ていない生徒を指導して、評価するためではないかと思えますが・・・？

○教育評価の意義について改めて考えさせられる機会となりました。「指導と評価の一体化を図る必要がある」と考えつつも、自分自身「点数を付ける」方に偏っていたように思います。初心に戻って「何のための授業改善なのか」を考え直素必要があると感じました。

○授業改善の「日常化」、また PDCA サイクルの”C”を「授業のゴールと差がある生徒の様子・実態から見取ること」が、特に大切だと感じました。そう考えると、授業者側には、「本質的な問題」をきちんと把握すること、その解決に向けて「ゴールを明確化」し、「試行錯誤すること」が肝要だと考えました。一方で、中学校の場合では、同じ授業でもクラスや生徒によって実態が異なることがあり、その分、授業の本質的な問題が多様に考えられそうだし、その分、それぞれの生徒の様子をより細やかに見取った上で改善を図らなければならない点が難しそうだと感じた。その点は、他教科の先生や周りの生徒に聞いたり、他の授業の様子を見学したりして、生徒の様子を多面的に捉えるよう努めたい。

○「指導と評価の一体化」の「評価」は、「評定」とは関係ないということがわかり、すっきりしました。つまり、授業でいかに生徒を見とれるかということだと思いますが、自分の場合、50分の授業で、計画したことを終わらせることに必死になりすぎて、子供を見とれてないと日々反省していますが、なかなか改善できません。授業改善の前に、そこから改善しないとだめだと改めて思いました。また、「一見些細に見える問題も、背後には本質的な問題が隠れている」とはすごくわかっています。しかし、その本質的な問題を見つける力量が、自分は十分でないと思っています。それを見抜く方法みたいなことを教えていただきたいです。